

# 健康維持へ活動充実

内閣府の「社会参加章」に選ばれ喜ぶ生石グラウンド・ゴルフクラブの会員



松山 生石グラウンド・  
ゴルフクラブ

「社会参加章」を受章

松山市の生石グラウンド・ゴルフクラブ（吉村征夫会長）がこのほど、主体的に社会と関わり充実した生活を送る団体などを紹介する内閣府の「社会参加章」に選ばれた。結成から20年を超え、80人余りの高齢者が日々、熱心に活動。会員は「これからも頑張る励みになる」と喜んでいる。

## 高齢者80人 学校行事も積極的参加

内閣府によると、同章は全国の自治体などからの推薦を受けて選考委員会を経て決定する。本年度は推薦のあった79団体から53団体を選んだ。四国では同クラブのみ。

「ナイスショット」「少し短いか」。10月下旬の土曜日。ボールを打つ乾いた音とともに、参加者の笑い声が生石小学校のグラウンドに響いた。

クラブは1997年に女性を中心に結成。その後、男性も増えた。現在の会員は生石地区の66、89歳の81人で、単独チームでは県内最多という。ほぼ毎日練習に励み、県内外の大会で好成績を収める人も多い。

発足時から続け、全国大会の出場経験も豊富な生嶋奈美子さん（83）は「距離感をつかむのがなかなか難しいが、ホールインワンはうれしいエピソード」。

前会長の和田善光さん（84）は「健康を維持するために引きこもってしまったりいかん。みんなと顔を合わせる事が一番だ」。

クラブは競技だけでなく、小学生との田植えや稲刈り、餅つきなど3世代交流事業や学校行事にも積極的に参加。登下校時の見守りも行っている。

精神的な活動の一方で、県グラウンド・ゴルフ協会理事長も務める吉村会長（74）は、県内で近年、若手愛好者の参加が伸び悩んでいることを危惧。「生石でも一時は会員が110人を超えていた。それぞれ各地のクラブに入ってもらい、健康寿命を伸ばしてほしい」と呼び掛けている。

（和田亮）